

## 平成 23 年度 大学職員情報化研究講習会～応用コース～

### 第 3 分科会 「大学の情報公表と ICT の戦略的活用」

#### A グループ

- 座長（進行）： 常翔学園 木村  
発表： 大阪工業大学 江島、日本大学 勝俣、学習院大学 白石  
書記： 金沢工業大学 高島（PowerPoint 作成）、崇城大学 北方（記録）

#### 討議テーマ

大学に求められる情報公表と質向上への取り組みについて  
～ AISAS 理論を利用したモデル提示 ～

#### 討議内容

##### （1）各大学メンバーの情報公表状況について

平成 23 年 4 月より義務化された情報公表に関する現在の対応状況について、それぞれ情報交換を行った。大学により公表の項目が異なること、公表している情報の入口が分かりにくいこと、公表しているものの、質の向上を目的としたものではなく、文部科学省や補助金獲得を意識した対応に留まっている等、ステークホルダーの視点で作成されていないことが確認できた。

数値のみを公表し、その数値に対する分析や説明がされていない公表ページについては、数値の意味をステークホルダーが誤って捉える可能性もあり、また他大学と情報を比較する際、不便と感じさせてしまうことが想定できた。たとえば、就職率の分母の設定等、大学にとって、公表することがマイナスとなりうる数値について、公表に曖昧さが残る状況となっている。

##### （2）A グループ討議の課題と到達目標について

ステークホルダーにとって分かりやすい情報公表のあり方を追求することが課題として挙げられたが、限られた日程で公表内容の是非を議論しても結論が出ないとの判断から、ステークホルダーが求める情報に限定せず、大学から主体的に情報発信し、特色ある情報公表を行うことによって、質の向上につなげる情報発信の一つの仕組みを提案することを目標とした。

##### （3）大学に対するステークホルダーの確認

大学に対するステークホルダーは様々考えられるが、A グループにおいては「受験生、保護者、在学生、企業、教職員、地域社会」をリストアップした。

##### （4）各ステークホルダーが必要とする情報

メンバーそれぞれが、（3）でリストアップしたステークホルダーが必要としているであろう情報を出し合い、重複する情報をグルーピングし、絞り込んだ。（参考 1）

その結果、入試問題や志願状況等の“大

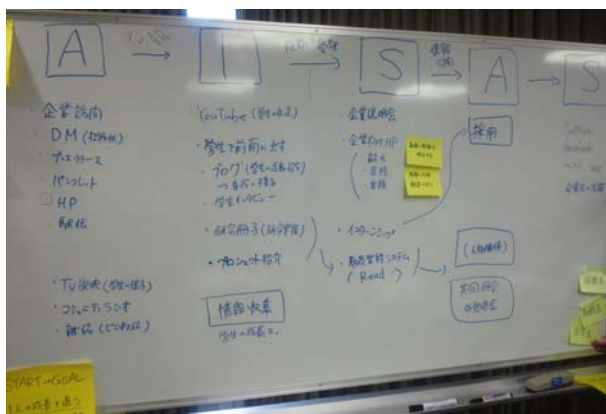


（参考 1）

学の入口に関する事項”、施設・設備や大学で行う研究内容等の“在学期間中に関係する事項”、卒業後の進路や就職状況等の“出口に関する事項”が抽出できた。そこから、多くのステークホルダーが大学に求める共通の情報は、「何が学べるか？どのような力が身につくのか？」であるとの結論に至った。

#### (5) 情報公表に対するモデルの提示

上記(1)～(4)を踏まえ、購買行動プロセスを説明するモデルであるAISAS理論(別添資料PowerPoint参照)を利用し、ステークホルダーの1つである【企業】に対しての情報公表を考える場合、どのようなアプローチが考えられるのかについて検討を行った。(参考2)



AISAS理論を用いてモデルを

(参考2)

提示するにあたり、情報発信の一連の流れにターゲットを絞ったAISAS理論だけでなく、大学の質保証を担保する自己点検・評価を行うためのPDCAサイクルとの連動もモデルに含めることとし、AISAS理論で得られた評価、情報をPDCAサイクルで学内に取り込み、分析を行った上で、次の活動に活かすこと、また、その活動を新たに情報として発信していくことを連続して行うことで大学の質向上を図るモデルを作成した。

#### (6) 討議の結論

大学に求められる情報公表とは、ステークホルダーを意識し、社会への説明責任や質の向上を目的としたものでなければならない。今回の討議ではAISAS理論を活用し、それぞれのステークホルダーに適したアプローチで情報公表を行うことを第一段階、PDCAサイクルの中で情報公表の評価・結果を次の活動に活かしていくことを第二段階と仮定し、第一段階の結果を第二段階で分析・改善することで、次の活動を新たな情報発信につなげていくというスパイラルアップのモデルを提示することができた。

このモデルを利用することで、社会への説明責任、質の保証に対応し、個々の大学の魅力をそれぞれの事情に適した方法により情報公表できるものとする。

#### (7) 今後の展望

今回提案したAISAS理論を利用したモデルを各大学で活用し、様々なステークホルダーへのアプローチについて検討を推し進めたい。また、大学内での自己点検、評価を担うPDCAサイクルと併せて活用することで質の保証向上につなげていきたい。

以上